

令和7年9月10日

保護者様

基山町立基山中学校
校長 野田 英樹

令和7年度全国学力・学習状況調査（3年生）及び
令和7年度佐賀県学力調査（2年生）の実施結果について（概要）

今年の4月、全国の国・公・私立学校の中学校3年を対象に、「令和7年度全国学力・学習状況調査」が、佐賀県の中学校2年生を対象に「令和7年度佐賀県学力調査」が実施されました。今年度分の調査結果の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面であることをご理解くださいますようお願いいたします。

【全国学力・学習状況調査 3年生の結果】

○生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要

- (1) 特に良い傾向が見られる主な項目 * () は全国平均
- ・「将来の夢や目標をもっている」80.3% (67.5%)
 - ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりしている」87.4% (84.7%)
 - ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」83.5% (79.5%)
- 他にも、「自分には良いところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「友達関係に満足している」「人が困っているときには進んで助けている」「今回の調査の書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した」等、全国平均と比較して、良い傾向が見られる項目がありました。
- (2) 課題が見られる主な項目
- ・PCやタブレットの使用頻度は高くなりましたが、情報を収集することはできても、それを整理したりプレゼンテーションを作成したりする活動に課題が見られました。
 - ・家庭学習の時間や、勉強の為にICT機器を使用する時間が、全国平均と比べて低い傾向にあります。特に勉強時間については2時間以上勉強している生徒は平日で18.1% (30.8%) 土日でも14.9% (32.5%) と全国に比べて低くなっています。

○教科ごとの調査結果の概要

※理科のみ一人ひとりの正誤の状況から学力を測り、経年比較ができるスコアとなっているため数値の表し方が異なります。

【正答率】	国 語	数 学	理 科
基山中学校	57.0	48.0	平均正答率2.8
佐賀県	53.0	44.0	平均正答率2.7
全 国	54.3	48.3	平均正答率2.9

(1) 国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、全国・県平均よりやや高い。「書くこと」の正答率が比較的高く、「話すこと・聞くこと」も全国平均より高かった。
- ・「書くこと」「読むこと」の中でも、根拠を明確にして考えたり、自分の考えが伝わるようにして書いたりすることに課題が見られた。文脈に即した漢字の書き取りや、叙述の仕方についても継続的な指導が必要である。

(2) 数学の調査結果概要について

- ・数学全体については、県平均よりやや高いものの、全国平均と同等である。4領域（数と式・図形・関数・データの活用）のうち、関数以外は全国平均を下回っており、今後の課題である。
- ・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られた。条件を変えて考える問題など、発展的な内容を取り扱う必要がある。

(3) 理科の調査結果概要について

- ・理科についてはタブレット端末を使ったオンライン方式の調査だった。平均正答率を見ると全国・県平均と同等であり、分布表からは上位層とともに下位層も少なく、中間層（平均的な学力をもつ生徒）が多かった。領域別で見ると、地球領域は全国平均を上回っており、粒子領域は全国平均を下回っている。傾向としてはイメージできるものや身近な例をから考える力はあるものの、化学変化を数学的要素で記述するといった項目については課題が見られた。粒子モデルなどを用い、イメージしやすい形で理解させるなどの工夫が必要である。

【佐賀県学力調査 2年生の結果】

○教科ごとの調査結果の概要

〔正答率〕	国 語	数 学	英 語
基山中学校	61.2	55.8	43.5
佐賀県	61.0	52.5	46.5

(1) 国語の調査結果概要について

- ・全体的には県平均と同等である。領域で見ると「我が国の言語文化に関する事項」は下回っているが、「情報の扱い方に関する事項」は8ポイント程上回っている。これまでに学習した漢字の読み書きをしっかりと定着させること、文章の構成や展開を考えながら伝えたいことを明確に書くことに課題が見られた。

(2) 数学の調査結果概要について

- ・全体的には県平均を上回っている。領域で見ると、「数と式」「図形」に課題が見られるものの、「関数」「データの活用」については目標値を上回ることができている。

(3) 英語の調査結果概要について

- ・全体的に県平均を下回っており、課題がみられる。領域で見ると「聞くこと」については県平均と同等であるが、「読むこと」「書くこと」については課題が見られた。とくに、英作文については無回答率も高いため、既習の文法を確実に習得し、場面を判断して使用する力を付けていく必要がある。

教科の調査結果より

どちらの調査においても無回答率が低く、最後まで諦めずに課題に取り組もうという姿勢が見られました。特に解答を、言葉や式を使って説明したり、文章で書いたりする問題についても、最後まで解答を書こうと努力した生徒が多い傾向にありました。

2年生については特に国語と英語について課題が見られるため、授業改善はもちろん、基礎的な内容を確実に習得させるとともに、問題の意図を読み取る力や複数の条件を満たす記述力、解答選択肢の要点を捉え、的確な答えを導き出す力を身に付けていく必要があります。

基山中学校の学力向上の取組方針

- 全教科において、単元を通して身に付ける力を明確にした授業づくりを行います。
- タブレットの活用を推進するとともに、課題解決学習を取り入れた授業に取り組みます。
- 小中一貫教育の「家庭学習がんばろう週間」を充実させ学習の質と時間を向上させていきます。
- KIYAMA E-プロジェクト等を通して、英語力の向上を目指します。

保護者の皆様へ（ご家庭での協力のお願い）

昨年度の課題として捉えた「朝食を毎日食べている」と答えた生徒が10ポイント近く高くなりました。中学性の時期は身体を作る大事な時期ですので、引き続き「早寝 早起き 朝ご飯」の実践をお願いします。ほとんどの生徒が「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えています。本校では「総合的な学習の時間」を通して「ふるさと基山」を知り、発信していく活動を行っていきます。今後ご家庭との連携を深めながらより良い社会の形成者の育成をめざしていききたいと思います。